

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A8 微生物と人間社会		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	健やかに生きる	生命を多次元で哲学する	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	泉川 公一	責任部局	医歯薬(医学系)
趣旨	<p>医学の進歩はめざましく、様々な分野で先進的な医療技術や薬剤などが次々に開発されている。中でも、移植医療、再生医療などの進歩には目を見張る物があるが、これらの予後に大きく関わるのが感染症である。世の中に存在する様々な微生物がヒトの脅威となりうるが、一方で、これらの微生物の有効利用がヒトの生活の向上に有用であったことに論をまたない。悪い側面ばかりが強調される微生物ではあるが、ヒトによる一方的な微生物の制圧は、微生物の変化に結びつき、より強力で、より薬の効きづらい新しい微生物も産む現状がある。地球においては、ヒトも微生物も同じ生物の一員であり、共存していく姿が望ましく、さらに、このような問題には世界的な視点で望むことが求められている。本講義により、学生が人間社会の一員として、ヒトと微生物の関わりについて学習し、一方で、病気を起こしたり、悪用される側面についても理解を深めることを目標とする。微生物を多角的な視点から考える力を養うため、学生自らが疑問点や意見をプレゼンテーションする場も設ける。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>エイズやエボラ出血熱など様々な怖い感染症が取りざたされていますが、「感染症＝怖い」とは限りません。確かに、バイオテロなどに利用されるなど怖い一面もありますが、ヒトと微生物はもちつ、もたれつの関係にあるとも言えます。皆さんの大腸には、百兆個の細菌がいます。なぜでしょう？ 本講義では、その理由を学ぶことができます。「微生物＝ヒトの友達」というのは言い過ぎかもしれませんが、ヒトも、微生物も、地球上における生き物の一員であることを学び、上手共存するための手法についても考えて欲しいと願います。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
医療現場における微生物	柳原 克紀 長谷川 寛雄 森永 芳智 宇野 直樹	数多の微生物のうち、ヒトに感染し、医療現場でよく問題となる微生物を臨床検査の観点から解説する。感染症が疑われた時、実際の医療現場ではどのような検査が行われるのかを近年の遺伝子検査を含めて紹介する。	微生物同定法、微生物遺伝子検査、薬剤耐性菌、ウイルス発癌
ヒトと微生物の関わり ～もちつ、もたれつの関係性～	泉川 公一 宮崎 泰可 田代 将人	微生物の中にはバイオテロ兵器やなどのようにヒトに危害を与えるものもあれば、酵母菌のようにヒトに恩恵を与えているものなどがあり、様々な形でヒトと微生物は関わりを持っているといえる。悪いとばかり言えない微生物の側面を理解して、共存していく道を模索すべきであるということ概要を概説する。	細菌、酵母、黴菌、ウイルス、ワクチン、感染免疫、細菌、バイオテロ、戦争、進化論
エイズについて考える	西田 教行 佐藤 克也 新 竜一郎	HIV ウイルスの感染によって起きるエイズという病気は、研究の進展に伴いお薬を飲んでいれば死なない病気になった。しかし、現代に生きるすべての人にとって脅威であること変わらない。エイズの歴史、エイズの世界的現状、エイズ蔓延防止のさまざまな取り組み、性教育のあり方、など多角的に問題を読み解き、予防医学への理解を深める。	エイズ、HIV、性教育、STD、

全学モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内 容を取り扱う	社会科学の内 容を取り扱う	現代的な話題 を取り入れる	アクティブ・ラ ーニングの活用	
医療現場における微生物	◎	○	◎		○	◎			○						○	
ヒトと微生物の関わり～もちつ、もたれつの関係性～	◎		○	◎			○		○	◎	◎			◎		
エイズについて考える	○	○	◎		○				○	○				○	◎	
◎(特に重視)の数	2	0	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	
○(重視)の数	1	2	1	0	2	0	1	0	0	3	1	0	0	2	0	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A9 教育の基礎		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	教育と社会	教育と文化	
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山岸 賢一郎	責任部局	教育学部
趣旨	<p>教員免許を取得するにあたり、学校教育教員にとって身につけておかなければならない教職についての教養として、教育や学校について理解し、基礎的な知識を修得します。当テーマ「教育の基礎」(モジュール I)では、教育の理念や歴史・行政と制度・教育課程にある児童生徒の心理等について学びます。なお、推奨するモジュール II「教育と社会」「教育と文化」では、教育相談・文学・自然科学・芸術・環境等の内容から自身の興味に応じて選択し、各内容について教育現場(学校や地域社会)との関わりから学んでゆきます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>教員免許の取得を希望される学生は受講してください。また、教育に興味・関心のある方も歓迎します。なお、本モジュールだけでは、当然ながら教師に必要な素養のすべてを得ることはできません。ここで得たものを糧にして、積極的に幅広い教養を身につけてください。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
教育原理	山岸 賢一郎	前近代から現代までの、思想史的・史的・社会的な基本事項を学ぶ。それを踏まえ、教育の理念や、教育の現実について、批判的・多角的に考察する。	子ども, 学校, 家庭, 若者, 先生, 近代教育, ほか
教育心理	吉田 ゆり	子どもの発達(障害児の発達を含む)、学習過程とその動機づけ、パーソナリティと適応、教育評価の主要4領域、さらには教師の心理、学級集団の心理について講義を行う。	発達, 学習, パーソナリティ, 教育評価
教育行政・制度論	楠山 研	教育行政・制度の意味を理解するとともに、具体的で身近なテーマをもとに、そのあり方について検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育行政・制度の特徴について多角的に考察できる。	教育と社会のつながり, 取捨選択, 国際比較

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
教育原理	◎	◎	◎	○	◎		○	◎		◎		◎	○	◎	◎	
教育心理	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○		◎	○	○		◎	◎	○
教育行政・制度論	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○		○		◎		◎	◎	◎
◎(特に重視)の数	3	2	3	1	3	1	0	1	0	2	0	2	0	3	3	1
○(重視)の数	0	1	0	2	0	1	3	2	0	1	1	1	1	0	0	1

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A10 環境をめぐる諸問題		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	環境と社会生活	環境と社会の共生	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井口 恵一郎	責任部局	環境科学部
趣旨	現在、私たちを取り巻く環境問題は複雑さを増し、もはや二項対立の単純な構図の中に解決の糸口を見出すことは困難な状況にある。「生物多様性」、「都市環境」ならびに「地球温暖化」をテーマに掲げ、持続可能な社会の実現に資する専門知識の習得を目指す。		
学生の皆さんへのメッセージ	文理融合の学際的なアプローチから、環境問題の本質を理解するために有用な技術を学び取ってください。問題解決に当たって、自らの言葉で表現する態度を養って欲しいと願っています。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
生物多様性を考える	井口 恵一郎 吉田 謙太郎 山口 典之	地球上に生息・生育する種々の生物がお互いに競争・共存し、現在の複雑で多様な生態系が危ういバランスの上に成り立っていることを複数の事例を元に理解する。その上で、農業や水産の現状と目指すべき方向を学び、環境問題と食糧確保との関連を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。	生物多様性、生態系、生物間相互作用、食糧問題
都市環境を考える	渡辺 貴史 杉山 和一片 片山 健介	近代日本のインキュベーターだった長崎の都市環境を皆さんと一緒に考えたい。長崎の都市環境といえば、直ちに斜面市街地における特徴的な景観や、海の見える光景が目につく。そこでこれに交通面等から接近する。ただ本講座では、広域都市圏を対象とし、都市の持続可能性を求めて、里山や過疎化が進行している郊外地域の生活環境にも目を向ける。のみならず、明治から昭和戦前の華やかなりし長崎の歴史的景観にも思いを馳せ、長崎に紛うことなく、「近代」は来ていたことを確かめる。	都市環境、斜面市街地、里山、過疎地域、歴史的景観
地球温暖化を考える	高尾 雄二 河本 和明 富塚 明 和達 容子	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国際間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。	温室効果、地球温暖化、エネルギー収支、化石燃料、各国の立場

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点				
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)										
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D	
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用	
生物多様性を考える	○		◎		○		○				○	◎			◎	◎	
都市環境を考える	○		○		○		◎	○		○	○				◎	○	
地球温暖化を考える	○	○	○	○	○			○		○	◎				◎	◎	◎
◎(特に重視)の数	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3	2	1	
○(重視)の数	3	1	2	1	3	0	1	2	0	2	2	0	0	0	1	0	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A11 暮らしに活かす情報技術		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	情報社会を考える	ICTの仕組みと活用法	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	上繁 義史	責任部局	ICT基盤センター
趣旨	現代の情報社会を積極的に生きるためには大量の「情報」をうまく活用していかなければなりません。本モジュールでは、こうした情報社会に適応するために、多種多様な情報を解釈・活用するための処理技術や手法について学びます。また、情報や情報機器を安全に運用・利用するために必要な知識を習得します。		
学生の皆さんへのメッセージ	今日の社会では、大学での学習・研究だけでなく、どんな場面でも「情報活用」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、本モジュールにてさまざまな知識や技能を身につけてください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
情報の活用	丹羽 量久	整った報告書(レポート)の効率的な作成に欠かせないデジタル文書作成技法およびデータ分析に応用できる中級レベルの表計算技法とその可視化技法について演習を交えながら学ぶ。	文書作成技法 表計算技法
情報社会の安全と安心	上繁 義史	情報化社会における、セキュリティ維持について、基本となる考え方を学ぶ。セキュリティ維持に必要な情報技術、ルール、運用の基礎について講義を行う。また、理解を深めるために、情報セキュリティマネジメントに関するグループ学習を行う。	情報セキュリティ 情報セキュリティリスク リスク管理 個人情報保護
計算機の科学	野崎 剛一	コンピュータの入力、記憶、演算、制御、出力の各機能の仕組み、基本ソフトウェアとアプリケーションプログラムの動作原理及びデジタルデータの表現方法などの基礎知識について講義を行う。また、課題により、コンピュータ内での情報の表現、OS、アプリケーションプログラム等の理解を深める。	コンピュータ ハードウェア ソフトウェア

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨							
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
情報の活用	◎	◎	○		○			○		◎			○	○	◎	◎
情報社会の安全と安心	◎	○	◎	○		○				◎				○	◎	◎
計算機の科学	◎		◎							◎		○		○	◎	○
◎(特に重視)の数	3	1	2		0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	2
○(重視)の数	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	3	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A12 国際社会を理解するための多様な視点		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	多文化共生とグローバル人材育成	グローバル化と国際開発	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下 俊一	責任部局	国際教育リエゾン機構
趣旨	このモジュールは、将来、グローバル社会で活躍を目指す学生が有すべき基本的な素養を、長崎の知の蓄積を基盤として教授することを目的とします。長崎は江戸時代以降、世界に開かれた歴史を有し、海外からの知はこの地を経由して日本にもたらされました。この経験知を共通の基盤として、国際関係を理解するための基礎知識(モジュール I)、グローバル社会の舞台である国際的なビジネス分野、政府や国際機関等の公的分野、NPO や NGO による民間分野において、どのような活動がなされるのか、そのためにはどのような資質が必要とされるのか(モジュール II)、あるいはグローバル社会での活動の意義といったより基礎的な知識を皆さんと共有します。未知の大海に打って出ようとする気概のある皆さんの受講をお待ちしています。		
学生の皆さんへのメッセージ	「国境を越えた」という言葉でなく、国境という概念自体を意識することなく、社会で活躍する人材を育成する、との目的でこのモジュールは目指しています。そこでは単に英語や外国語能力が求められるのではなく、しっかりとした目標を持ち、そのための基礎的な知識や素養をしっかり身につけておかなければなりません。その上で、高いコミュニケーション能力、すなわち自らの考えをしっかりと相手に伝える力を持つことが必要です。このような意識を有する皆さんの受講をお待ちしています。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
東西文化交流の歴史	姫野 順一	この講義は、長崎を基点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」(Cross Intellectual History)をほりさげ、国際交流における文化的・歴史的側面を理解し、国際人としての教養に基づいた態度と倫理の形成をはかろうとするものです。講義は自主性と思考力、判断力と表現力を尊重します。	東西文化交流 日欧交渉史 長崎学、知性史 異文化接触
国際的視点に立った法と政治	嶋野 武志	人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければ、紛争が多発してしまいます。しかも、20世紀に比べ、あらゆる面で国際的な交流が増加している21世紀においては、自国の法だけでなく、異なる歴史・文化を持つ他の国・地域の人たちの法についても、基礎的な知識が欠かせません。この科目では、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、国際的なルールである国際法などを概観するとともに、そうした法を生み出す背景としての政治についても考えます。	法 法の背景としての歴史・文化 法を生み出す政治
科学技術と社会	山下 俊一	現代社会におけるグローバル化の意味と将来の就職を考える時、コミュニケーションに必要な情報源の質・量と、そして伝達手段としての言葉や技術の修得が必要最低限となる(語学力・コミュニケーション力)。情報氾濫の時代、限られた時間と空間の中で、科学技術社会の光と影の両面を俯瞰し、長崎を足場にしたグローバル化の実践例を多面的に学ぶ(事例研究)。特に、世界保健機関WHOの国際健康戦略とエネルギー問題を通じて、MDGからSDGへの新思考外交の転換を例として、グローバル化における国際開発の分析評価方法を学ぶ(疫学研究)。	科学技術史、社会科学、世界保健機関、エネルギー問題、リスク論、疫学

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用	
東西文化交流の歴史	◎	◎	○		◎	○	○	○	◎	○	◎	○	○		○	
国際的視点に立った法と政治	◎	○			○		◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎	○	
科学技術と社会	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	◎	○	◎		○	◎	○	
◎(特に重視)の数	3	2	0	0	1	0	1	2	0	3	1	3	0	0	2	0
○(重視)の数	0	1	2	1	2	1	2	1	3	0	2	0	2	3	0	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A13 コミュニケーション基礎講座		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	グループ・コミュニケーション	文化と対人関係	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	岡田 佳子	責任部局	大学教育イノベーションセンター
趣旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。他方で、我々は皆ヒトという生き物として、また特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ってきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。</p> <p>したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえているコミュニケーション状況を明らかにし、その上で各自のコミュニケーション力をより機能的なものにしていくことが有効です。本科目群では、コミュニケーション状況を理解するとともに基礎的なコミュニケーション力を高めつつ、コミュニケーションの深い理解に基づいた実践力向上を目指します。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識はとくに問いませんが、コミュニケーションについて広い関心のある方、また他者と協働して学習を進めていくことに関心のある方を歓迎します。科目内容だけでなく、他の学生たちと、また担当の教員たちとコミュニケーションを実践していくこと自体が、コミュニケーション技能の向上の機会となります。ぜひチャレンジして下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
人間関係の社会学(仮)	岡田 佳子	成長と共に広がる人間関係の中で身についていく思考やふるまい、関係性について理解を深める。また、協同学習を通して人の多様性について考える力を身につける。	社会化・家族・ジェンダー・学校文化・階層
メディア・コミュニケーション基礎	深尾 典男	日常の様々なメディアの影響力を検討し、社会規範の形成や権力の浸透におけるコミュニケーション過程を理解して生活に活かす。	権力・記号・言説分析・ポストモダニズム
コミュニケーション基礎実践	當山 明華 岡田 佳子 若菜 啓孝	日本語の「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基礎的な技能を高める。加えて、ソーシャルメディアの可能性や情報化の光と影などについても理解する。	日本語・批判的読み・自己表現・情報リテラシー

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
人間関係の社会学	○	○	◎	◎	◎	○		◎		○		○	◎	○	◎	◎
メディア・コミュニケーション基礎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○		○	○	○	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション基礎実践	◎	◎	◎	◎	◎			◎		○			◎		○	◎
◎(特に重視)の数	2	2	3	3	2	0	1	2	0	0	0	0	3	1	2	3
○(重視)の数	1	1	0	0	1	2	0	1	0	3	1	2	0	1	1	0